CIO補佐官等連絡会議

第5ワーキンググループ（情報技術）
【ＷＧ５】

【活動報告書】

2005年12月20日

＜　目次　＞

■【WG5】 活動の概要　P.　1

1. 活動の目的　P.　2
　1－1.【WG5】の目的
　1－2. 今年度の目標

2. メンバー　P.　3

3. 活動の方法　P.　4
　3－1. 3つのサブワーキンググループ（SWG）を設置
　3－2. 活動の流れ
　3－3. 活動の実績

4. SWG活動の成果　P.　7
　4－1.【WG5-SWG1】セキュリティ技術：ICカード　活動成果
　4－2.【WG5-SWG2】業務継続：バックアップセンター　活動成果
　4－3.【WG5-SWG3】OSS：OSS導入ガイドライン　活動成果

5.【WG5】活動の評価と今後の課題　P.　9
　5－1. 評価と反省
　5－2. 今後の課題と計画

6.【WG5】からの提言　P. 10
　6－1.【WG5】活動の継続
　6－2. 各府省及び府省横断の事業・業務継続計画の策定
　6－3. ソフトウェア調達におけるRFP標準の提供
　6－4. SWGの予算化と運営方法の見直し
　6－5.【WG5】メンバーの補強

■参考資料　P. 12

＜添付資料＞
■サブワーキンググループ活動報告書
　□CIO補佐官等連絡会議第5ワーキンググループ（情報技術）
　　第1サブワーキンググループ（セキュリティ技術）活動報告書　平成17年12月20日
　□CIO補佐官等連絡会議第5ワーキンググループ（情報技術）
　　第2サブワーキンググループ（業務継続）活動報告書　平成17年12月20日
　□CIO補佐官等連絡会議第5ワーキンググループ（情報技術）
　　第3サブワーキンググループ（OSS）活動報告書　平成17年12月20日

■調査結果
　□「各府省における技術課題認識に関する調査」調査結果
　　CIO 補佐官等連絡会議第５ワーキング(情報技術)　平成17年10月5日
　□「各府省における共通技術課題への取組状況に関する調査」調査結果
　　CIO 補佐官等連絡会議第５ワーキング(情報技術)　平成17年12月20日

■□■ 【WG5】 活動の概要 ■□■

■【WG5】の活動目的

最新の情報技術動向に基づき、各府省における情報化の推進に当たっての重要な技術課題を府省横断的に共有すると共に、それらの解決の方向性ならびに具体的な解決方策を提供する。

■提言事項

＜提言1.【WG5】活動の継続＞

・CIO補佐官は今後、最適化計画等の案件を実施するにあたり、技術面における具体的な情報が必要となる。
・CIO補佐官による各府省への支援活動の品質を一定以上のレベルに維持するためには、【WG5】の活動を継続し、技術情報を提供し続けることが不可欠である。
・特に、これを支える技術情報のリファレンス・モデルであるTRM（テクニカル・リファレンス・モデル）の充実は、経済産業省にて継続的に実施されることを強く期待する。

＜提言2. 各府省及び府省横断の事業・業務継続計画の策定＞

・現在、災害等に対する対応策は国民の生命と安全に直接関わる論点に集中しており、情報基盤を含む中央政府の業務継続性の議論には至っていない。
・今後、各府省及び府省横断の事業・業務継続計画の策定に着手すべきである。

＜提言3. ソフトウェア調達におけるRFP標準の提供＞

・今後の調達にあたっては、そのRFP上において特定の商標名を掲げるのではなく、『機能仕様による表現』とすることが求められる。
・但し、現実的には、各府省の調達担当部局において、必要かつ十分な機能仕様の記述をその都度行っていくことは困難が予想される。
・政府が中心となって、ソフトウェアの機能仕様による表現の標準記載要領を整備し、それを継続的に維持していくことを望む。

＜提言4. サブワーキンググループの予算化＞

・個別具体的な論点について検討を進めるSWGでは、事務局機能や報告書の作成など、実質的な作業に伴う工数が発生する。
・周辺組織等からSWGに参加するメンバーに責任を持ってこれらを実施してもらえるよう、「調査費」を準備する等の予算措置が必要となる。

＜提言5.【WG5】メンバーの補強＞

・今後も平行して複数のSWGを運営する必要性を勘案すると、体制の補強が急務である。
・自省の活動において、共有可能な重要技術課題を持つCIO補佐官には、課題の提示を推奨すると共に、当ワーキンググループへの積極的な参画を要請し、平成18年度に向けて体制を強化したい。

■今後の課題と計画

＜課題＞

・TRM活用ガイダンスの策定
・SWGの活動期間確保
・情報提供ポータルの整備
・「マップ（各府省における新技術への取組状況一覧）」の作成と共有
・今後の検討テーマ候補：SOA、Thin Client、電子会議、VoIP、テレワーク（VPN）、Web動画配信、外字　等
　※「OSSサブワーキンググループ」については、活動を継続中

＜活動計画＞

・06年1～3月期は月1回程度の頻度で活動を継続し、以下を実施する。
　－新技術に関する意識の高いCIO補佐官との交流、ならびに【WG5】メンバーのリクルーティング
　－次期SWG立ち上げテーマ候補の検討と先行調査
　　例）外字に関する「インデックスフォント研究会」メンバーへのヒアリング　など

1. 活動の目的

1－1.【WG5】の目的

CIO補佐官等連絡会議 第5ワーキング 情報技術（以下【WG5】）では、各府省の業務・システム最適化計画策定、及び最適化の実行に際し、導入を検討する新技術について、各府省の共通的課題として考慮すべき論点を、各府省、及び広く一般より情報収集し、各府省情報化統括責任者（CIO）補佐官を通じ、必要な情報を各府省に提供することを目指す。

これにより、各府省が同じ技術的検討課題に対し、労することを廃し、また、CIO 補佐官が自府省に対して的確な助言を出来るよう支援するものである。

また、情報技術が今後も絶えず継続的に発展し続けることを鑑み、【WG5】の活動の目的を以下のように定めた。

【WG5】活動の目的 最新の情報技術動向に基づき、各府省における情報化の推進に当たっての重要な技術課題を府省横断的に共有すると共に、それらの解決の方向性ならびに具体的な解決方策を提供する。

1－2. 今年度の目標

今年度は、以下の 3 点を目標として定めた。

・喫緊の重要技術課題を把握し、これらについて情報を収集・提供する。 ・府省間共有すべき新技術について、各府省の取組状況を収集し、共有する環境を整える。 ・本年の実績に基づき、【WG5】の活動を継続・発展させる方法について提言を行う。

2. メンバー　順不同　敬称略　（SWG-2は、参加多数のため簡略表記いたしました。）

■【WG5】メインメンバー

野村　邦彦　経済産業省CIO補佐官
清水　俊彦　金融庁CIO補佐官
宇佐見　潮　宮内庁CIO補佐官
三輪　一郎　内閣府CIO補佐官（WGリーダー）

□支援メンバー

平林　元明　㈱日立製作所　チーフEAコンサルタント
宗宮　由紀子 ㈱日立製作所　公共システム事業部
長沼　充宏　日本アイ・ビー・エム㈱　主任ITアーキテクト

□ゲスト

満塩　尚史　環境省CIO補佐官（【WG4】リーダー）
横澤　誠　㈱野村総合研究所　上席研究員
亀津　敦　㈱野村総合研究所　副主任研究員
木戸　彰夫　IBM・ビジネスコンサルティングサービス㈱　シニア・テクニカル・スタッフ

□事務局　総務省　行政管理局

中井川氏　武居氏　奥田氏　斉藤氏　帆足氏　高橋氏

■SWG-1　メンバー

山本　寛繁　総務省行政管理局　情報システム専門官
川口　徳雄　総務省行政管理局　係長
堀田　敦志　内閣官房 IT 担当室
後藤　哲史　内閣官房 IT 担当室
国分　明男　ニューメディア開発協会　常務理事
山崎　正　ニューメディア開発協会
武笠　年秀　ニューメディア開発協会
平林　元明　㈱日立製作所　チーフEAコンサルタント
三輪　一郎　内閣府CIO補佐官（リーダー）

■SWG-2　メンバー

(株)日立製作所　平林氏（各社取り纏め）　小林氏　茂垣氏　宗宮氏
日本ユニシス(株)　羽田氏
マイクロソフト(株)　鈴木氏
富士通(株)　関根氏　徳武氏　向井氏　山下氏　松田氏
日本アイ・ビー・エム(株)　二上氏　大塚氏　森氏　深谷氏
日本オラクル(株)　八島氏
金融庁CIO補佐官　清水（リーダー）

■SWG-3　メンバー

石塚　康志　経済産業省商務情報政策局　課長補佐
山本　寛繁　総務省行政管理局　情報システム専門官
川口　徳雄　総務省行政管理局　係長
木戸　彰夫　IBM・ビジネスコンサルティングサービス㈱　シニア・テクニカル・スタッフ
鈴木　友峰　（株）日立製作所　OSS テクノロジセンタ
平林　元明　（株）日立製作所　チーフ EA コンサルタント
宇佐見　潮　宮内庁CIO補佐官（リーダー）

3. 活動の方法

3－1. 3つのサブワーキンググループ（SWG）を設置

【WG5】のメインの会議は府省全体の状況把握と技術情報の集約に特化。
【WG5】を支える3つのサブワーキンググループ（SWG）を設置し、
【WG5-SWG1】：セキュリティ（ICカード）
【WG5-SWG2】：業務継続（バックアップ）
【WG5-SWG3】：OSS（OSS導入ガイドライン）
の3つの個別テーマに取り組んだ。

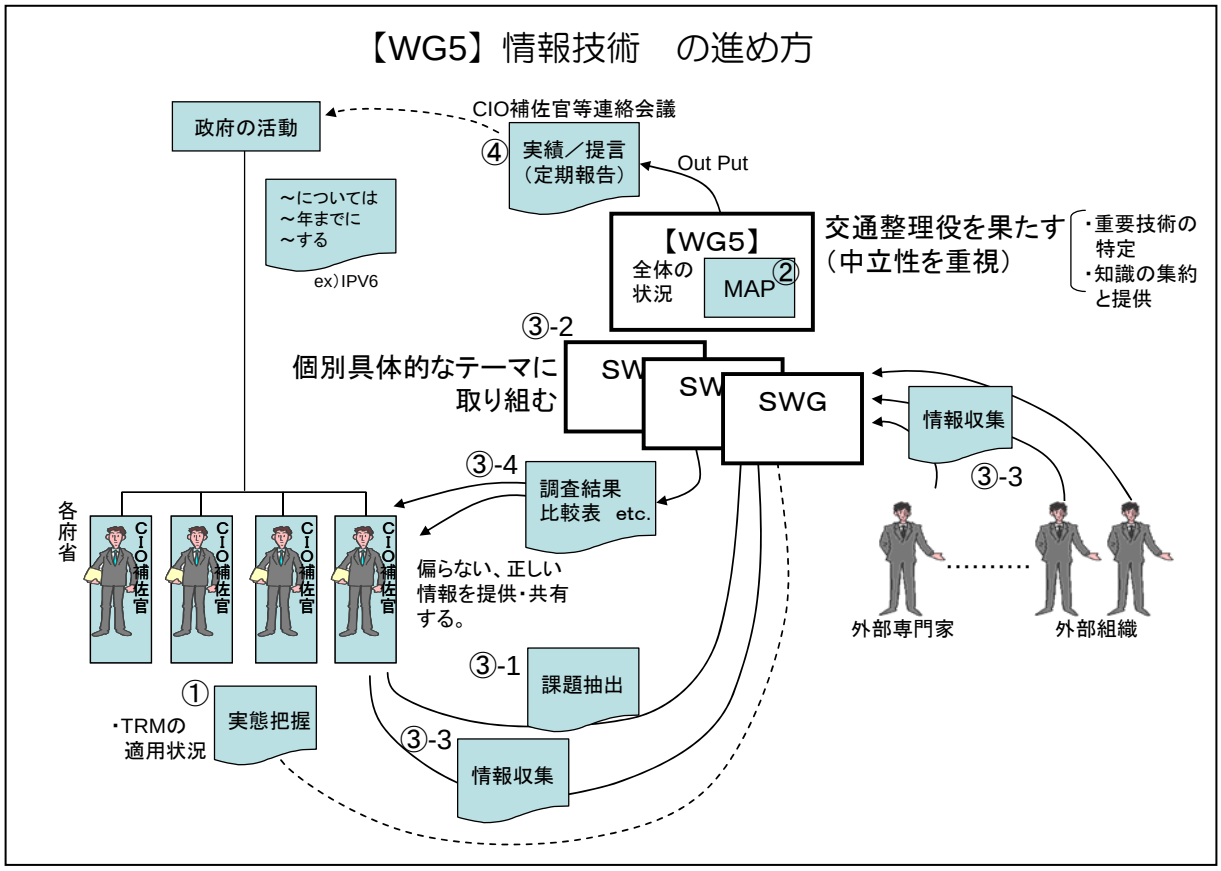

図　：【WG5】情報技術　の進め方

【進め方の補足】
①. 新技術の適用状況等に関する実態を把握
②. 個々の技術の位置付けを把握するためのMAPを作成
③-1. 新技術に関する調査により、各府省のCIO補佐官から課題を抽出
③-2. 重要技術分野を選定し、サブワーキンググループ（SWG）を立ち上げ
③-3. 専門知識をもつCIO補佐官、外部専門家・外部組織から情報を収集
例）IPA、JISA、海外政府機関、ベンダー・メーカー各社　等
③-4. 結果を取りまとめ、全府省のCIO補佐官にフィードバック
④. 新技術導入の状況を定期的に報告

3－2. 活動の流れ

平成17年度は、以下のスケジュールに沿って活動した。

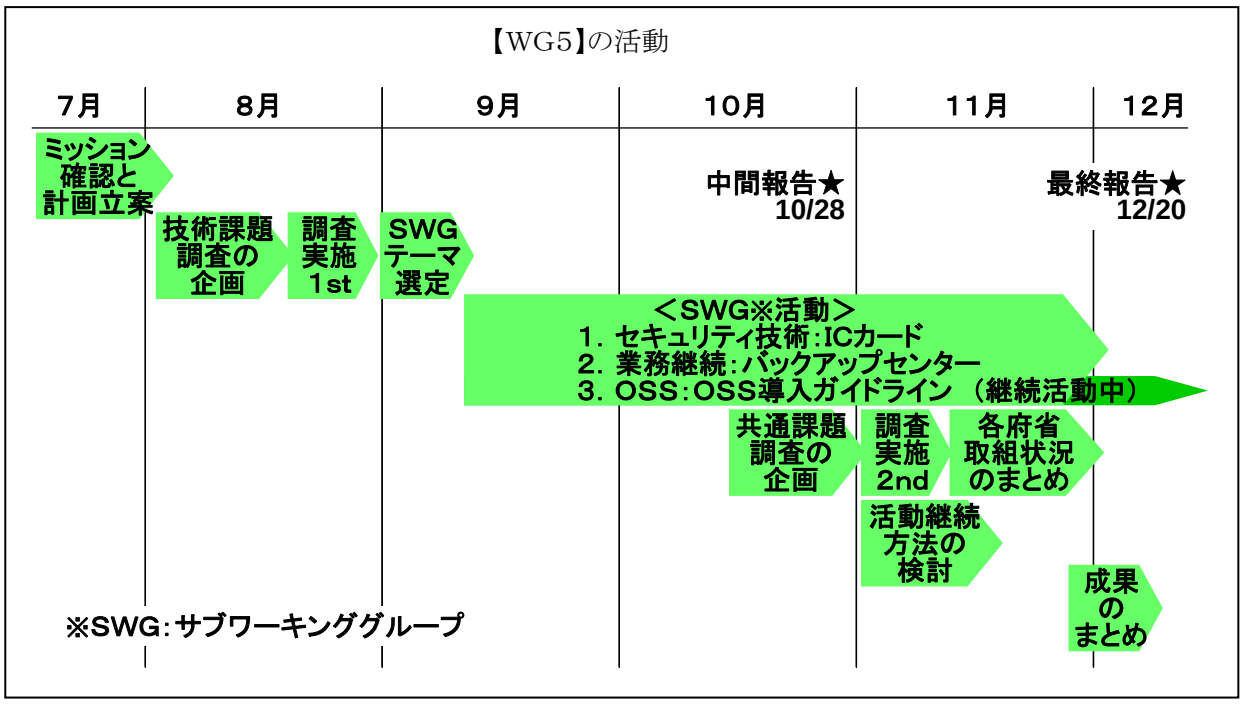

図 ： 【WG5】の活動

□活動の範囲と目的の確認

・【WG5】のミッションを確認し、活動の目的を設定。積極的に外部専門家の協力を得ることを確認。

・サブワーキンググループを立ち上げる方式で、複数の個別具体的なテーマに取り組むことを決定した。

□第1回調査の実施

・テーマ選定を目的として第1回調査：「各府省における技術課題認識に関する調査」を実施。

・全府省のCIO補佐官に協力を仰ぎ、府省間に共通する重要技術課題を抽出した。

・特に注目度の高かった3分野を重要技術分野として認識し、次の3つのSWGのテーマとした。

＜ 3つの重要技術課題 ＞
1. セキュリティ技術：ICカード
2. 業務継続：バックアップセンター
3. OSS：OSS導入ガイドライン

※参照 ： 「各府省における技術課題認識に関する調査」調査結果
CIO 補佐官等連絡会議第５ワーキング(情報技術) 平成17年10月５日

□SWG形式での個別テーマへの取り組み

・3つの「重要技術課題」についてサブワーキンググループ（SWG）を設置し、具体的技術課題に取り組んだ。

・【WG5-SWG3】：OSS（OSS導入ガイドライン）は、活動が開始できるまでに時間がかかったため、継続活動中。

□第2回調査

・3分野の重要技術課題に関する取組状況について、追加調査を行い、各 SWG にフィードバックした。

※参照 ： 「各府省における共通技術課題への取組状況に関する調査」調査結果
CIO 補佐官等連絡会議第５ワーキング(情報技術) 平成17年12月20日

□成果のまとめ

・本年度の活動実績を評価するとともに、技術情報の収集・提供と共有に関する継続的な活動のあり方に関して、提言事項を取りまとめた。

３－３. 活動の実績

□【WG5】実績

・活動期間を通じて、【WG5】として20回の検討を行った。

・各回の日程と主な議題は以下の通り。

	日程	主な議題
第1回	7月21日（木）	【WG5】のミッション＆進め方の検討　マイルストーンと活動方法設定
第2回	7月28日（木）	今後の進め方の検討
第3回	8月　3日（水）	補佐官を対象とした調査（初回）の実施方法検討
第4回	8月10日（木）	第１回調査依頼内容の確認
第5回	8月25日（木）	情報技術マップ（JISAまとめ）に関するヒアリング（幹事会社、NRI）
第6回	8月31日（水）	第１回調査結果の検討
第7回	9月　9日（金）	SWG活動テーマ「重要技術課題」の選定
第8回	9月14日（水）	各重要技術課題についての討議
第9回	9月21日（水）	各重要技術課題についての討議　中間報告準備
第10回	9月30日（金）	中間報告準備 【WG4】との連携確認　SWG活動状況確認
第11回	10月　5日（水）	中間報告準備　SWG活動状況確認
第12回	10月12日（水）	第２回調査の企画　SWG活動状況確認
第13回	10月18日（火）	中間報告書の確認　SWG活動状況確認
第14回	10月26日（水）	第2回調査依頼内容の確認
第15回	11月　2日（水）	提言事項討議　OSSの状況ヒアリング（IBC）
第16回	11月　8日（火）	SWG活動状況確認z
第17回	11月16日（水）	第2回調査結果確認　提言事項討議　SWG活動状況確認
第18回	11月24日（木）	第2回調査結果検討 【WG5】報告書骨子検討　SWG活動状況確認
第19回	11月30日（水）	第2回調査結果検討 【WG5】報告書骨子検討　SWG活動状況確認
第20回	12月　8日（木）	報告書内容確認

□SWG実績

・各SWGにおいても平行して会合を持ち、検討を行った。

・各SWGの実績は以下の通り。

【WG5-SWG1】：セキュリティ（ICカード）　：　4回の検討会を実施した。

【WG5-SWG2】：業務継続（バックアップ）　：　7回の検討会を実施した。

【WG5-SWG3】：OSS（OSS導入ガイドライン）　：　2回の検討会を実施した。　＜継続活動中＞

※各SWGの詳細は、添付の【活動報告書】を参照。

4．SWG活動の成果

・各SWGの活動成果（概要）と提言事項は以下の通り。

※各SWGの活動成果（詳細）は、添付資料（各SWGの【活動報告書】）を参照。

4－1.【WG5-SWG1】セキュリティ技術：ICカード　活動成果　＜＜SWGリーダー　内閣府　三輪CIO補佐官＞＞

□活動成果（概要）

・平成 17 年度から導入が開始されている「国家公務員カード」の導入にあたって必要な前提知識、ならびに留意すべき事項を取りまとめた。

・引き続き、内閣官房IT担当室を中心として、全府省共通APの候補となっているSSO－PJとも連携を取って活動していくことが確認できた。

□所感

・実施回数が限られる中、積極的な情報提供と前広な議論を行っていただいたメンバー各位に感謝する。

・以下に、SWGリーダーとして感じた課題認識を列挙して、当SWG活動の結びとする。

＜相互運用性の確保が課題となる＞

・相互運用性テストは、後続府省の導入が重なる平成18年度末の時期に集中することが見込まれる。

・このため、不具合が発覚し修正が必要となる場合の時間的バッファ、相互に修正済みの環境で再テストを行うための手順の確認など、相互の負荷に留意しながらスケジュール調整を行うなどの注意が必要である。

＜運用開始直後の負荷対応方法について＞

・国家公務員カード運用開始直後の問合せ対応等の負荷は、各府省の身分証配布担当部局で吸収できる負荷であることを想定しているが、先行府省（内閣府、外務省、防衛庁、経済産業省）における負荷の立ち上がり状況を確認し、後続府省への支援体制要否を検討する必要がある。

＜内閣官房IT担当室との連携を密に＞

・ICカードの調達仕様策定にあたって1社のみの情報に頼ると、「このAPには～kバイト必要」、「その要件は、この仕様のカードでなければ対応できない」といった間違った認識に基づいて調達仕様をまとめてしまう可能性がある。

・このような問題を避けるため、各府省のCIO補佐官は、中央政府におけるICカード導入推進担当部局である内閣官房IT担当室と密に連絡を取り、仕様書における偏った記述を排除することに十分配慮する必要がある。

4－2.【WG5-SWG2】業務継続：バックアップセンター　活動成果　＜＜SWGリーダー　金融庁　清水CIO補佐官＞＞

□活動成果（概要）

・ 昨年の経産省ＴＲＭプロジェクトに参加した各社からメンバーを募り、サブワーキングを立ち上げた。

・ 各社で提供できる業務継続に関する技術情報を持ち寄ると共に、INTAP の「ビジネス継続性技術調査報告書」等を参考に７回に亘る会合で検討を重ね、最適化計画での次期モデル策定時やその後の予算要求時以降の各フェーズで参考となることを目的に「業務継続の視点で見た IT 調達ガイダンス」を纏めた。

・ ガイダンスの内容については、調達の各段階で「どの様な検討が必要か」また「非常時における重要業務・情報の例」等、これまでにない資料を提供することができたことはサブワーキングの成果と考える。

・業務継続性を考える場合、本来は BCP(Business Continuity Plan)の策定が必要であるが、これについての検討は、時間等の制約から今回は対象外とした。

□所感

・短期間且つボランティアでの活動であったため、検討の範囲を IT 調達に限らざるを得なかったが、ＢＣＰ(Business Continuity Plan)については、各府省及び府省横断の事業・業務継続計画の策定に着手する必要がある旨を提言で述べることで、今後の推進体制に委ねることとした。

・サブワーキンググループ活動に参加し、貴重な意見や情報を持ち寄り、ガイダンス作成にご協力戴いたメンバー各社の方々に深く感謝する。

４－３.【WG5-SWG3】OSS：OSS導入ガイドライン　活動成果　＜＜SWGリーダー　宮内庁　宇佐見CIO補佐官＞＞

□活動成果（概要）

・行政機関においてOSSの検討に関わる経済産業省と総務省、及びOSS推進の立場からのOSS推進フォーラム所属の有識者、ならびにOSSを利用する府省の立場からのCIO補佐官、のそれぞれの立場から意見を交換する場としてのサブワーキングを設けることが出来た。

・OSS推進フォーラムに所属する有識者からこれまでの検討状況を伺い、OSS導入上の考慮点についてまとめた。

・商用ソフトとOSSを区別無く調達を行うための調達チェックリストや情報の照会先の情報をまとめた。

・業務・システム最適化計画対象のシステムに対して、OSSの導入検討状況についてCIO補佐官へアンケートを行った。その中で先行している府省の中から2つの事例について、OSSの調達の経緯についてCIO補佐官から詳細のヒアリングを実施した。

・OSSを推進する機関及び府省全体の組織に対する提言、ならびに今後のサブワーキングの活動方針を取りまとめた。

□所感

・今回のアンケートの結果からも、CIO補佐官のOSSに関する関心は相当高くなってきている。

・OSSに限らず真のオープンシステムを目指す取り組みもスタートしており、レガシーシステムからの決別を強く意識している府省があることは心強い。

・まだまだ黎明期にあるOSSであるが、産官学が共同し、また府省間で連携していく態勢を一日も早く築ければと思う。

・当SWG活動にご協力いただいた各位に感謝するとともに、今後も継続的な協力をお願いしたい。

5.【WG5】活動の評価と今後の課題

5－1. 評価と反省

①今後の検討テーマ候補

・第2回の調査により、改めて新技術への取組状況を確認し、以下の重要な共通技術課題を認識した。

－SOA
－Thin Client
－電子会議
－VoIP
－テレワーク（VPN）
－Web動画配信

・また、外字の問題についても「インデックスフォント研究会」における検討が進んでいる。
・今後の取り組みにおいては、これらの技術課題について、継続的に取り組んでいく必要がある。

②TRM活用ガイダンスの策定

・技術課題への取り組みが先行する府省では、最適化計画立案のプロセスにTRMの活用方法を組み入れている。
・技術情報の活用レベルを向上するために、このノウハウを活かした「TRM活用ガイダンス」の策定が必要である。

③SWGの活動期間確保

・SWGではメンバーの招集と論点の調整に1～3ヶ月を要した。このため、実質的な活動の期間・回数ともかなりタイトなものとなった。
・来期以降のSWG活動には、6ヶ月～9ヶ月程度の期間を設け、実質的な成果が得られるよう余裕を持ったスケジュールを立てて活動を行う必要がある。

④情報提供ポータルの整備

・技術情報に関するリファレンスDB（リンク集・参考資料集）の整備には着手できなかった。
・行政管理局提供の情報ポータルに収集したデータを集約するとともに、非常勤のCIO補佐官の利便性を考慮し、霞ヶ関の外からもアクセスできる環境を整備することを検討する必要がある。

⑤「マップ（各府省における新技術への取組状況一覧）」の作成と共有

・当初はCIO補佐官が共有できる「マップ」を作成する計画があったが、実現できなかった。
・第2回の調査においても、取り組み段階の定義が不明確だったため、公開しない前提での調査となってしまった。
・今後、改めて「マップ（各府省における新技術への取組状況一覧）」を作成し、共有したい。

5－2. 今後の課題と計画

・宇佐見補佐官がリーダーを務める「OSSサブワーキンググループ」については、活動を継続する。
・また、上記の反省と必要性に基づき、06年1～3月期の準備段階を経て、平成18年度の活動につなげたい。
・06年1～3月期は月1回程度の頻度で活動を継続し、以下を実施する。

－新技術に関する意識の高いCIO補佐官との交流、ならびに【WG5】メンバーのリクルーティング
－次期SWG立ち上げテーマ候補の検討と先行調査
　例）外字に関する「インデックスフォント研究会」メンバーへのヒアリング　など

6.【WG5】からの提言

6－1.【WG5】活動の継続

・CIO補佐官は今後、最適化計画等の案件を実施するにあたり、技術面における具体的な情報が必要となる。
・情報技術は絶えず更新されるため、ガイドラインや補足ガイドを発行しても常に見直していく必要がある。
・CIO補佐官による各府省への支援活動の品質を一定以上のレベルに維持するためには、継続的な技術情報の提供が不可欠である。

□【WG5】継続の方法について
・全府省の技術要求を集約し、短・中期的課題を特定しSWGに投げる。
・結果を全CIO補佐官に周知し、また、CIO補佐官等連絡会議に上程する。
・年間を通じて活動し随時テーマを選定し、個別テーマについて SWG を立ち上げる。
・半年ごとを目安として活動報告を行う（6月と12月を目処にCIO補佐官等連絡会議にて報告）。
　年間スケジュール例（4月着手の場合）
　　4：月立ち上げ、6月：テーマ選定、7～12月：SWG 活動、12月：報告
・体制　＝　CIO補佐官＋支援要員（補佐官スタッフ、外部有識者など）で構成
・月1回～2回程度の頻度で会合を持つ。

□他の WG との連携について
・他のワーキンググループとは、以下の観点で連携を図る。
【WG1】：第1WG で検討している To-Be モデルのうち、TAにあたる議題を引継ぎ、検討を継続する。
【WG2】：技術標準の整備に伴い運用段階で必要となるガバナンスをどうかけるか、PMOのノウハウを提供する。
【WG3】：最適化計画の実施段階のガイドラインを補足するため、散在する技術参考資料を集約する。
　　SLCPの工程をリファレンスの軸として、ガイドラインの下に位置づける技術情報を整備する。
【WG4】：セキュリティに関するソリューション（技術的実現モデル）を整理する。

□周辺組織との連携について
・以下の組織とコンタクトを持ち、活動の継続を要請するとともに成果に関するモニタリングを行う。
・また、必要に応じて活動の継続や共有可能な論点を取り上げるなどの協力要請も行う。
・特に、これを支える技術情報のリファレンス・モデルであるTRM（テクニカル・リファレンス・モデル）の充実は、経済産業省にて継続的に実施されることを強く期待する。
－経済産業省TRM－PJチーム　：　活動の範囲をSRMの一部まで拡張し、継続的なアプローチを要請する。
　　06年1～3月に協力を要請する。
－JISA　：　情報技術マップの継続的な整備を要請する。
－JUAS　：　BCP等、ユーザーとしての論点を共有できるパートナーとして情報交換を行う。
－OSS推進フォーラム　：　OSSの調達基準策定にあたり協力関係を維持する。
－IPA-OSSセンター　：　OSSの調達基準策定にあたり協力関係を維持する。
－SSO-PJ（シングルサインオンプロジェクト）　：　国家公務員カードへの共通AP追加に関して連携を維持する。
－INTAP（情報処理相互運用技術協会）　：　情報技術の標準化等の観点から、連携を要請する。
－ベンダー・メーカー　：　SWGへの積極的な参画を期待する。

6－2. 各府省及び府省横断の事業・業務継続計画の策定

・現在、災害等に対する対応策は国民の生命と安全に直接関わる論点に集中しており、情報基盤を含む中央政府の業務継続性の議論には至っていない。
・今後、各府省及び府省横断の事業・業務継続計画の策定に着手すべきである。

6－3. ソフトウェア調達におけるRFP標準の提供

・今後の調達にあたっては、そのRFP上において特定の商標名を掲げるのではなく、『機能仕様による表現』とすることが求められる。
・但し現実的には、各府省の調達担当部局において、必要かつ十分な機能仕様の記述をその都度行っていくことは困難が予想される。
・そこで、OSSの普及を推進する組織を中心とした中立的な立場の組織において「ソフトウェア機能一覧」を策定し、中央省庁、独立行政法人ならびに地方自治体における調達の際のリファレンスとして活用することを提言したい。
・ソフトウェアの提供者は、この一覧に自らの提供するソフトウェアの機能を記載させることで調達の対象として認知さ

れることとなる。
・もちろん、この一覧を策定するにあたっては、OSSのみならず、商用のソフトウェア製品を市場に提供する企業も参加することが必要となる。
・策定作業には数年の期間と相応の負荷が予想されるため、実際の策定にあたっては中・長期的な取組計画を立案し、これを組織的に維持することが重要である。
・また、策定の負荷を回収できるだけの利用者数を確保する（中央省庁だけでなく独立行政法人や地方自治体などが全面的に利用することを基本とする）ことが課題となる。
・以上を勘案し、政府が中心となって、ソフトウェアの機能仕様による表現の標準記載要領を整備し、それを継続的に維持していくことを望む。

6－4. SWGの予算化と運営方法の見直し

□予算化に関して
・【WG5】はあくまでも交通整理の場として位置づけ、作業ではなく、技術情報の流通を促進する。
・個別具体的な論点について検討を進めるSWGでは、事務局機能や報告書の作成など、実質的な作業に伴う工数が発生する。
・周辺組織等からSWGに参加するメンバーに責任を持ってこれらを実施してもらえるよう、「調査費」を準備する等の予算措置が必要となる。

□運営方法について
・構成メンバー ： CIO補佐官+周辺組織の有識者で構成（活動予算が必要）
・【WG5】で認識した個々の重要技術課題に関して、周辺の関連組織より有識者を招集し、個別に取り組む
・SWG には、【WG5】のメンバーである CIO 補佐官が参画し、リーダーを務める。
・他のメンバーは周辺組織（ベンダー各社を含む）より召集。
・他のメンバーは、自由な立場で意見を述べる「オブザーバ」、有償で連絡や資料作成などを請け負う「事務局員」のどちらかの形態で参加する。

6－5.【WG5】メンバーの補強
・【WG5】は、メインとなるCIO補佐官メンバーが4名の体制で活動した。
・今後も平行して複数のSWGを運営する必要性を勘案すると、体制の補強が急務である。
・自省の活動において、共有可能な重要技術課題を持つCIO補佐官には、課題の提示を推奨すると共に、当ワーキンググループへの積極的な参画を要請し、平成18年度に向けて体制を強化したい。

■参考資料

【WG5】の活動を行った際に参照した資料を以下に列挙する。

No.	資料名		発表、発行年月日	発表、発行元
1	TECHNICAL REFERENCE MODEL	Version 2.0	2003.2	Office of the Chief Information Officer Smithsonian Institution Washington, DC 20560-0463
2	The Technical Reference Model (TRM)	Version 1.0	2003.6	A Foundation for Government-wide Improvement
3	The DoD EA Technical Reference Model	Version .03		The Department of Defense Enterprise Architecture
4	経済産業省版TRMについて-活用のイメージ-(技術参照モデルTRM)		2005.3.18	経済産業省TRMプロジェクト チームリーダ ㈱日立製作所　平林　元明
5	TRM活用と技術評価のガイドライン	Version 1.0	2005.3.18	TRMワーキンググループ
6	技術参照モデルフレームワーク(TRM) 区分・カテゴリ分類設計書・技術サービス項目・技術サービスタイプ設計書	Version 2.0	2005.3.18	TRMワーキンググループ
	付録:TRM技術一覧表			
7	技術参照モデル策定維持管理ガイドライン	Version 2.0	2005.3.18	TRMワーキンググループ
	付録3:システム構成モデルサンプル			
	参考:WEBページ一覧			
8	3省の電子申請の比較	TRM4-1		
9	電子申請システムの比較		2003.5.13	
10	情報サービス産業における技術マップに関する調査報告		2005	(社)情報サービス産業協会
11	法務省情報システム可用性分類基準(案)	CIOAG-002V001	2004.9.8	法務省ITアドバイザーグループ
12	中央省庁の主なシステム(Aランク)の対応状況			
13	中央省庁の主なシステム(Bランク)の対応状況		2005.9.20	
14	コンピュータ西暦2000年問題に関する行動計画		1998.9.11	高度情報通信社会推進本部決定
15	経済産業省TRM技術一覧表(TRM技術一覧表に対する各省庁技術課題プロット)		2005.9.20	
16	平成15年度ビジネス継続性技術調査報告書		2004.3	(財)情報処理相互運用技術協会
17	企業における情報セキュリティガバナンスのあり方に関する研究会の開催について	(News Release)	2004.8.31	経済産業省
18	事業継続計画(BCP)策定ガイドライン参考資料集			
19	企業における情報セキュリティガバナンスのあり方に関する研究会報告書		2005.3	
	参考資料①　情報セキュリティ対策ベンチマーク			
	参考資料②　情報セキュリティ対策の取組状況に関するアンケート調査票			
	参考資料③　情報セキュリティ対策の取組状況に関するアンケート調査結果			
	参考資料④　リスク定量化に関する検討資料			
	参考資料⑤　情報セキュリティ報告書モデル			
	参考資料⑥　事業継続計画策定ガイドライン			
20	平成16年度ビジネス継続性技術調査報告書		2005.3	(財)情報処理相互運用技術協会

以上